

研究倫理、共著者などに関する、論文投稿者へのお願い

2020年8月2日

発育発達学研究 編集委員会・委員長 大澤清二  
同 副委員長 北川薫

1. 共著者については特にご注意ください。ゴーストオーサー、ギフトオーサーは禁止です。共著者は研究に直接的に関与し、掲載された内容に対して十分に共同責任を負える方だけに限り、補助的な貢献をした場合には共著者としてではなく、謝辞においてそのことを明記するにとどめてください。不適切な場合には、書き替えをお願いする場合があります。
2. 原著論文、短報などはオリジナルであることを前提としております。形式的に整備されていても、本学会の趣旨（発育発達学に貢献すること）から逸れる論文は他の雑誌に投稿していただくようお願いすることがあります。
3. 収集したデータの客観性が保証できない論文は科学論文としての条件を満たしませんので、掲載をお断りすることがあります。例として、研究者がデータ収集、整理、加工、の各段階で客観性を証明できないデータを使用している場合はこれに当たります。  
既に日本学術振興会ではこうしたガイドラインを研究者の義務として公表しており、実験ノートや記録紙、データセットなどは客観性を証明するものとして、必ず保管することを求めています。これは科学としての必須条件である追試や反証の可能性を保証するために不可欠の資料となります。また、アンケート調査の場合にもこの点をご配慮ください。
4. 研究データの改ざん、盗用、捏造はこれを疑われる時は掲載を見合わせる場合があります。

以上、本学会としては優れた科学論文を産み出し、社会的な責任を果たすために科学者として会員諸氏がこれらの研究倫理を順守していただくことを期待いたします。